（７）東中筋中学校

学　　校　　長　　溝渕　忠
校内研究代表者　　三石　裕子

１．研究主題

「自ら考え、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」

①学力向上

②仲間づくり

２．研究主題設定の理由

本校の教育目標である「知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒の育成」を目指し、研究主題を設定している。

本校には毎年、部活動の関係で校区外から複数名の生徒が入学してくる。それに加え、校区内の小学校の卒業生は何割かが校区外の中学校に進学することもあり、新入生はそれぞれに新たな人間関係を築いていくことになる。また、本校は小規模校であるため、生徒一人一人に教職員の目が届きやすいという、人的には豊かな教育環境にある。その一方、生徒は与えられたことに対しては素直に取り組むが、自分で考え工夫し、学習に取り組んだり人間関係を作ったりする点には弱さが見られる。しかし、自ら高みを目指し一歩を踏み出せるようになれば、伸びる可能性をもった生徒たちである。このような生徒たちに、自ら考え実践できる力をつけたいと考え、研究主題を設定した。

21 世紀を生きる生徒たちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、課題を解決する「生きる力」が求められている。その力をつけるために、学力面や生活面の課題に即して、特別部会（学力向上部会・仲間づくり部会）等による具体的提案及び実践を通して、重点目標の達成を図る研修を進めていきたいと考える。

３．研究の進め方と方法

教職員の意思統一を図り、取組を充実させるために、以下の体制で計画的に研究を進めていく。

なお、毎月３回、原則水曜日を校内研の日に設定する。教科間連携におけるチーム会は、原則水曜日の週時程内に位置付ける。

企画委員会（校長・教頭・教務・研究主任・事務職）
- 研究内容を整理し、年間計画（実施日、討議内容、担当者の確認）を立てる。
- 協議事項の原案を検討する。

↓

校内研全体会
- 年間計画をもとに、担当者からの提案を協議、確認する。

↓

特別部会（学力向上部会・仲間づくり部会）
- 研究主題における重点目標達成のための具体的提案をする。

チーム長会・チーム会
- 組織的に授業改善を進め、授業力の向上を図る。

学年部会
- 生徒の現状を把握し、成果と課題に応じて対応する。

４．研究内容

（１）学力向上への取組

①わかる授業づくり

・授業づくりのスタンダードに基づいてPDCAサイクルを重ねる中で、言語能力の育成や生徒指導の３機能についても留意して授業を行ってきた。授業では、「分かりやすい問い・課題・めあて」「生徒が考える場や活動の設定」「生徒が表現する場や活動の設定」をポイントとした。

・授業評価を授業改善に生かした。学期末の授業評価アンケートには共通項目を設定し、課題に対し全体で対応できるようにした。

・思考過程のわかるノートづくり、学力定着のためのノートづくりに取り組んだ。ノートの活用について生徒の意識を高めるため、HNGP（ひがなかノートグランプリ）を学期に１回実施し、お互いのノートから学ぶ機会を作った。

・基礎学力の定着に向けて、チャレンジタイム（15分間）を活用し、授業とリンクさせている。数学の基本問題や英語のこれ単の習熟を中心に、必要に応じて国語や理科に取り組むこともある。

・単元テストの前には希望者を対象に放課後補習を行い、学習内容の定着を図っている。

・学力調査後には結果分析を行い、生徒の強みや弱みを全体共有し、その後の指導に生かした。

②教科間連携の取組

・全教員が２つのチームに分かれ、チーム毎に、教材研究、指導方法の研究、学力調査の分析や定期テスト等の検討を行い、新学習指導要領で目指す授業の実現に向けて、実践を進めた。

・学習指導案検討では、「小学校の学習内容との関連」「めあての工夫」「本時で働かせる教科の見方・考え方」を中心に協議を行った。

・学校全体でつけたい力として「コミュニケーションをとる力」「表現する力、プレゼン力」を設定しており、それを鍛える場や活動を授業に組み込むことを意識している。

・公開授業後の協議では、自身の授業に行かせる点を確認し合い、授業改善や授業力向上につなげた。

・教科間連携の取組は、４週１サイクル（①学習指導案検討　②公開授業　③事後検討　④諸課題）で行った。

・月に１回程度、チーム長会（チーム長、管理職、研究主任）を開き、各チームの進捗状況の把握や情報交換を行う予定だったが、今年度は定期的に開くことができなかった。

（２）道徳教育の取組

①「道徳教育推進拠点校事業」の研究内容

・道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実に関する実践研究

・道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業実践の研究

・道徳科の趣旨を踏まえた評価のあり方に関する研究及び組織的・計画的な評価の研究

・家庭・地域との連携を図った道徳教育の実践研究

②指導計画の充実

・道徳教育重点目標を２つに整理し、関連する内容項目（A1自主、自律、自由と責任・B9相互理解、寛容）に沿って、別葉（道徳科と各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期）も整理した。

・行事と教材を関連させるよう、年間指導計画の配列を工夫した。

③「考え、議論する道徳」の授業実践

・年度当初に、道徳の時間の指導方針や道徳の授業づくりの流れを全体で確認し、統一した取組ができるようにした。

・学年部単位で事前研究、授業、事後研究を行い、発問の内容、話合い活動の在り方、思考ツールの活用、板書、などについて指導方法を工夫した。

・「コミュニケーションをとる力」や「表現力」は、「考え、議論する道徳」の授業を支えるも

のであるため、道徳の授業だけでなく、各教科等でも、生徒が自分の考えを表現する場を反復継続して設定している。

・小中連携の一環として、東中筋小学校の授業づくり講座に参加し、授業実践の研修に努めた。また、全員が外部の道徳教育研修会や研究発表会に参加し、学んだことを共有することで、自身の授業に生かした。

④評価

・評価メモを作成し、授業を参観する際に生徒の発言や学習の様子を記録し、生徒の評価に生かした。

・生徒の評価文は、学年や全体で共有することで、書きぶりに差異が出ないようにし、妥当性、信頼性、客観性を保てるようにした。

・事後研究で出た授業の振り返りや生徒による授業評価は、データやファイル等で保管し、次の授業に生かしたり、授業改善につなげたりできるようにした。

⑤家庭・地域との連携

・保護者参加型の道徳参観日を実施。授業に続き道徳懇談会も計画していたが、春先の休校の影響で実施できなかった。

・道徳の授業に関する課題に保護者に関わっていただいたり、道徳通信、学級通信、学校便りで情報を発信したりするなどして、道徳教育について啓発を図った。

５．今年度の成果と課題

＜学力向上への取組＞

①成果

・教科の見方・考え方を働かせる授業や、つけたい力を意識した授業など、授業の視点やねらいを明確にした授業が増えてきた。

・教科間連携の視点を明確にしたことで、より具体的な協議や実践が可能になった。

・思考力問題を授業やテストに取り入れることで、生徒の表現力が徐々についてきている。

②課題・来年度へ向けて

・新学習指導要領の趣旨に沿った指導計画や評価の研究を進める必要がある。

・教科間連携において両チームの実践の共有を図り、より着実に授業改善や授業力の向上を図っていく。

・生徒の「読み取る力、聞き取る力、表現する力」などの育成を図る。

・高知県学力定着状況調査において、目標値を全国平均としていたが、目標には届かなかった（自校採点）。分析の結果、基礎基本の定着に課題が見られた。学習課題や家庭学習の充実、帯タイムの活用、等を通して改善を図っていく。

＜道徳教育の取組＞

①成果

・道徳意識調査において、自尊感情に関する数値が向上した。(「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答　5 月 65.5%→12 月 81.3%) また、道徳授業チェックシートにおいて課題であった「発問」は 0.2 ポイント、「応答」は 0.4 ポイント、年度当初より向上した。

・学年部での学習指導案検討を重ねてきたことで、ねらい、授業展開（発問)、評価を一連のものとして捉える視点が養われた。

・「道徳教育推進拠点校事業」研究発表会等で、本校の取組を発信することができた。

②課題・来年度へ向けて

・「考え、議論する道徳」の授業につながるような発問、問い返しの充実を図る。

・これまでの研究成果を来年度につなげる態勢を整える。

・家庭・地域との連携の仕方を工夫する。